

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 齋藤弥代子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・動物の視点から考え、行動できる獣医師を育てる。
- ・自身の専門分野である獣医神経病学（外科＆内科）においては社会に出てからも自己成長を続けることができる力を学生と研修医に授ける。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
小動物病院実習	獣医学科	選択	6 年	50
総合獣医学	獣医学科	必修	6 年	140
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6 年	3
卒業論文	獣医学科	必修	6 年	3
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5 年	145
獣医外科学実習	獣医学科	必修	5 年	145
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5 年	145
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5 年	1
獣医外科学	獣医学科	必修	4 年	132
基礎小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4 年	132

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。

卒業後も、自分の力で成長し続けることができる獣医師になって欲しいため、答えを教えるというより、やり方を教えるよう心がけている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育の目的と目標

1 と同様。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

學理に動画をあげ、予習／復習のみならず、アクティブラーニングとして授業（実習）中にも使用している。具体的には、実習内容の解説の際に、學理にあげた動画を見せながらその活用方法を説明し、學理による予習を促し、数日後の実習時には、グループに別れ、携帯や iPad などその動画を見ながら、学生たちとの実践実習を行なっている。Post コロナの新たな研究室活動としては、オンラインでの打ち合わせやゼミを多く持つようにした。2 週に 1 回の卒論研究ゼミ、月 1 回の症例検討会・ミニレクチャーなど

（2）ICTの教育活用

有

上記と同様だが、學理に臨床手技の動画をあげ、それを予習／復習のみならず、授業（実習）中にも使用している。コロナの影響があったため、ICT の活用の場がさらに広がった。高木先生が開発された VR を、獣医外科学実習や小動物臨床実習にて活用していることは特出すべき点である。研究室学生と研修医への指導として、前述以外にも、症例検討会と神経病に関わるセミナーを、オンラインや対面のハイブリッドなどの方式で開催したり、学外セミナーの動画配信を研修医や学生と視聴など。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

學理に動画をあげ、予習／復習のみならず、アクティブラーニングとして授業（実習）中にも使用している。具体的には、実習内容の解説の際に、學理にあげた動画を見せながらその活用方法を説明し、學理による予習を促し、数日後の実習時には、グループに別れ、携帯やiPadなどでその動画を見ながら、学生たちとの実践実習を行なっている。Post コロナの新たな研究室活動としては、オンラインでの打ち合わせやゼミを多く持つようにした。2週に1回の卒論研究ゼミ、月1回の症例検討会・ミニレクチャーなど。

(2) 学生の理解度の把握

B

個々の能力が把握できている研究室学生に関しては、病院で問診をとる、カンファレンスで質問をさせたりして、理解度を確認している。学部学生については、理想としては、教員と学生の比率を欧米なみ、せめて国公立なみにすることで、理解度を容易に把握できるようにする環境づくりが理想だと考える。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

ゼミやミーティングを行い、自分で勉強し、発表する機会の提供を行う。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

研究室学生に対しては、ゼミや個別ミーティングを頻繁に行い、質問しやすい環境の提供に努めている。実習では、診療後にカンファレンスを開き、自己の理解を確認する機会を設けている。カンファレンス中には電子カルテの前で質問を受けつけ、病院の生の情報を見せながら回答するように心がけている。学内全体としては、仕事量を減らし、時間に適度なゆとりを持たせることで、学生とのより円滑なコミュニケーションを図ることができると考える。

（５）双方向授業への工夫

A

④と同様である。その他として、これは難しいことはわかっているが、教員と学生の比率を欧米なみ、あるいはせめて国公立なみにすることで、双方向のやりとりが容易になる環境を整えてゆくことが理想だと考える。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

総合獣医学の授業に国家試験問題の解説を多く盛り込んだ。しかし国家試験の過去問題を授業で使用すると、自分で解いて点数を出すことができなくなるため、好ましくないという意見も学生から聞いた。全体として従来のような授業形態でも良いのかもしれない。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

例年、予習復習をあまりしていないとの評価なので、事前学習や復習に活用するよう、動画などの教材を複数作成して學理にあげた。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

全て分担教科なので正しくは不明。

予習してきたかどうか確認しながら実習を行った。①を行う前よりも、臨床手技ができる学生さんが増えたようなので、予習する学生さんが増加したと思われる。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

分担教科として大学で決まっているため変えることはできない。予習のための手技動画教材の學理への掲載は続けたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学業そのものが、学生の強いモチベーションとなると良い。授業に関する取り組みは、⑥と同様。半期や1年間など短期の特待生制度を大学として検討する。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

指導した大学院生が、学会発表で2度の学会賞を取得したが、修了後も、また学会賞を受賞したと連絡をいただいた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

大学の公務と重複しない限りは、ほとんど参加している。オンラインで自由な時間に見ることができるようになったのは良い。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期目標

- ・学生、院生、研修医に少し上のレベルの課題を与え、成功体験を増やしてもらう。
- ・アジア獣医内科学会の獣医神経科専門医レジデントコースを開始できるよう、学内の受け入れ制度を事務方と協力して整える。

長期目標

- ・学生、院生、研修医、教職員に良い意味の「ゆとり」を与えられるような体制を整備する。教職員は、学生たちに質の高い教育ができるよう、まず自分達の足元を固める必要がある。新型コロナウイルス感染症の開始時期と比べると改善が見られるが、教員は未だ多忙を極め、心身の健康を崩すリスクを負っていると感じる。注意が必要。欧米のように教員としての仕事に専念できる仕組み作りが必要とされる。そのほうが効率的であり、そこからゆとりが生まれ、ひいては大学の発展につながる。
- ・出る杭を伸ばす。一そのためには前述通り「ゆとり」が必要。
- ・アジア獣医内科学会の獣医神経科専門医を一人でも多く育て、麻布大から輩出する。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバス、學理、小テスト、レポート課題、試験問題、教材、授業動画、セミナー動画、ICTを利用している学生たちの写真、学会賞の表彰状、アジア獣医神経科専門医の資格証